

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	新岡 大和		
入学年度	平成 29 年度	学籍番号	17GG903
領域	総合リハビリテーション科 学	分野	
審査委員	主査	高見 彰淑	
	副査	若山 佐一	
	副査	北宮 千秋	
	副査	對馬 栄輝	

論文題目： 通所リハビリテーション利用者の QOL に影響を及ぼす要因

審査結果要旨：

通所リハビリテーション利用者の生活に関して、その質（QOL）の向上や維持を目的に調査検討したものである。健康関連 QOL の他、その生活における主観的幸福度の視点という 2 つの側面に対して、正準相関分析や多変量解析などからその要因分析を行ったものである。第 1 段階では、6 つの介護老人保健施設で通所利用している者を対象に調査し、健康関連 QOL（SF-8）および日常生活満足度（LSIK）を従属変数にして、身体機能や疼痛、うつ状態、年齢、同居の有無、趣味、生きがい感スケール、FIM 運動項目などを独立変数にして解析した。その結果、影響の強かった因子（うつ、疼痛、下肢筋力）を抽出できた。第 2 段階では同様の調査を 5 年間追跡調査し、フォローアップ時に維持できなかった因子を抽出した。さらにこの結果から、維持できた群と低下群に分け、前述の QOL、生活満足度を従属変数とし、多重ロジスティック解析にて低下する要因も見出している。

本研究は、生活期に入った通所リハビリテーション利用者を対象にしているため、健康関連 QOL に加え、主観的幸福度の要因を入れて検討している点が、新しい知見である。

申請者は、学位審査論文及び学位審査会を通じ、本研究の意義、結果に対する解釈において的確にすすめられており、充分周知の上研究がなされていた。さらに、質疑応答においても的確に対処していて、研究の理解充分なされていた。

研究プロセスや適切な倫理的手続きに基づき研究を進めてきたことは、独立した研究者として研究の遂行ができる高い能力を有していることを証明している。これらのことから博士の学位に相当すると判断できる。

最終試験 令和 2 年 1 月 23 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。